

51) 無月経 - その 1

1) 無月経に関する基本的知識と診断法に関わる設問

以下の文が正しいか否か記せ

- 問 1 : 二次性徴を認めない女兒で 14 歳までに初経をみないもの、二次性徴の有無にかかわらず 16 歳までに初経をみないもの、月経を有する女性において 3 周期以上にわたって月経を認めないものは臨床的に異常な状態にあるとして精査が必要である。 p3
- 問 2 : 無月経を訴えて来院した患者に対しては、まず妊娠の有無を確認し、次いで gestagen test、血中 estradiol および progesterone の測定を行う。 p4
- 問 3 : gestagen test の目的は、内因性の estrogen のレベルを評価することと、子宮腔からの血液の排出を妨げるような問題の有無を調べることである。 p5
- 問 4 : gestagen test の際にごく少量の点状出血をみた場合には内因性 estrogen は存在していると判断され、その後、自然排卵周期をみることが多い。 p5
- 問 5 : 排卵障害に伴う無月経が認められた患者においては正常子宮内膜から異型性や癌へ比較的短期間で進行することもあることから、unopposed estrogen に持続的に被曝している状態を回避するために、速やかに治療計画を立てる必要がある。 p6
- 問 6 : 無排卵症と診断された患者において、定期的に gestagen を投与することは内膜異型性などを予防する上で有効で、medroxyprogesterone acetate 5mg を毎月 1 週間服用させる方法が簡便で臨床上有用な対応法である。 p7
- 問 7 : 下垂体に異常が認められず prolactin レベルが異常高値を示す場合には、下垂体以外に存在する異所性 prolactin 産生腫瘍が関わっている例が稀に認められる。 p7
- 問 8 : gestagen test で出血が認められない場合には、月経血の排出に必要な内性器に異常があるか、または十分な内因性 estrogen が存在していないことが考えられる。これらの状態を鑑別診断するためには、結合型 estrogen 1.25mg あるいは経口 estradiol 製剤 2mg を 21 日間投与した後に、再度 gestagen test を試み消退出血の有無を確認する。 p8
- 問 9 : gestagen test あるいは estrogen+gestagen test において消退出血が認められた患者においては、さらに高位の間脳 - 下垂体 - 卵巣系の内分泌機能を調べる必要があり、消退出血開始後 1 週間以内に基礎レベルのゴナドトロピンを測定する必要がある。 p8

2) ゴナドトロピンのレベル別にみた無月経の区分に関する設問

以下の文が正しいか否か記せ

- 問 10 : 血中 gonadotropin が閉経後の女性にみられるような高い値を示す場合には、卵巣に gonadotropin に反応できる卵胞が存在していないことが示唆される。 p9

- 問11 :下垂体腫瘍は比較的稀で大部分はホルモン分泌機能を有しないものであるが、FSH 分泌下垂体腫瘍に伴って卵巢過剰刺激症候群様の症状などをみた希な例が報告されている。 p10
- 問12 :閉経期が近づくと基礎レベルの FSH は上昇を始めるが、早発閉経の患者においては完全に月経が停止する間近までに基礎レベルの FSH は正常レベルに留まる。 . p10
- 問13 :卵巢に卵胞成分が認められるにもかかわらず、gonadotropin は高値を示し無月経を認める症例は resistant ovary syndrome と呼ばれる。 p11
- 問14 :早発閉経や続発性無月経患者において、発育卵胞はリンパ球や形質細胞によって取り囲まれ、莢膜にリンパ球の浸潤が認められる例も報告されているが、このような患者では自己免疫疾患が関わっている可能性がある。 p11
- 問15 :35 歳未満で高ゴナドトロピン性卵巢機能不全と診断された患者においては染色体の核型分析を行わなければならない。 p12
- 問16 :高ゴナドトロピン性早発卵巢機能不全と診断された場合には、月経周期が回復し妊娠に到る例は極めて希である。 p13
- 問17 :早発卵巢機能不全には自己免疫疾患が関わっている例もあり、抗卵巢抗体検査で自己抗体の有無を調べておくことは臨床上有用である。 p14
- 問18 :gonadotropin が正常レベルであっても、時に gestagen test で消退出血がみられない場合がある。このような例の中には免疫学的測定によって gonadotropin レベルが正常と判断されても、生物活性が低下しているものもいる。 p14
- 問19 :gonadotropinが低値を示す無月経患者において下垂体や間脳の異常が関わっていることがあり、鑑別診断には CT や MRI によるトルコ鞍の画像診断が有用である。 . . p15
- 問20 :乳漏症を伴わない無月経患者で画像診断で間脳 - 下垂体系に異常が認められないものは視床下部性無月経である。 p16
- 問21 :無月経は間脳 - 下垂体 - 卵巢系、さらに子宮や膣などの内性器の異常によって引き起こされるが、続発性無月経を認めた患者においてもっとも頻度の高いものは卵巢の予備能の低下が関わって発生する無月経である。 p16